

(令和4年度)
学校自己評価書

園番号	園名
639	奈良市立伏見南幼稚園

639奈良市立伏見南幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	・教育目標を設定し、めざす子ども像をキーワード化し全職員で共通理解している。	・教育目標「夢をもち、豊かな心で意欲的に活動する幼児の育成」と設定し、教職員で共通理解した。 ・教育ビジョンの周知とともに目指す子ども像を常に意識し、教育活動に取り組んだ。 ・教育要領の理念を確認した。 ・感染症対策による保育形態の変化に対応し、環境を整えるようにした。 ・保護者アンケートの実施、教職員で話し合いをもち、改善に努めた。	A	・教育目標に迫るための経営方針を会議で共通理解できた。 ・教育要領、奈良市教育憲章を再確認し、教育目標や方針、教育計画を作成した。 ・保護者アンケートでは「子どもは喜んで幼稚園生活を送っている」「子どもは友達や先生と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」に保護者から高評価を得ている。	・次年度に向けて、今年度の反省評価を行い、課題を明らかにする。また、変容する社会状況に対応できるように努める。 ・園の教育目標や方針、保育内容等を保護者に伝える機会や時間を増やし、理解を進めていく。
		② 教育計画の作成	健康でしなやかな心と体をもった子<くのびのび>生命を大切にし思いやりのある子<ほかほか>		B		
		③ 教育課程の編成	願いを出し合いなかまと共に遊ぶ子<わくわく>よく考えよく工夫し最後までやり遂げる子<こつこつ>		B		
		④ 教育活動の評価	感動する心や表現する心をもった子<きらきら>を育てる教育を計画する。 ・教育要領や幼児・園の実態を踏まえ、教育課程を編成している。		A		
	(2) 教育内容・保育指導	① 指導計画の立案	・教育要領やバンビーノプラン、幼児の実態、社会状況に即した指導計画を立案している。	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」やバンビーノプランをベースに、感染症対策を熟慮しながら、各学年の指導計画について検討、作成した。 ・子どもの思いや願いが生きる環境の工夫と教材を研究し、実践した。 ・幼稚園、家庭の環境の変化に対応しながら、個々の実態、発達の過程を職員間で共通理解し、指導に取り組んできた。	A	・年間計画について教職員で話し合い、共通理解に努めた。 ・感染状況に対応し、保育内容を考慮し、柔軟に取り組んだ。 ・昨年度の取組を省察し、現状を踏まえて教育活動を行った。 ・機会あるごとに、子どもの姿を通してカンファレンスをした。	・幼児の実態、社会状況に応じて、年間計画を見直す。 ・時間を確保し、今日的な課題を意識しながら職員間で話し合い、教材の精選・指導の在り方などを工夫していく。 ・幼児自らが遊びをつくりだす環境、豊かな経験につながる教育を柔軟に計画していく。
		② 保育内容の精選	・ねらいを明確にし、環境・教材を工夫している。		B		
		③ 指導方法の工夫改善	・感染症対策を行い、個々に応じた指導、学級全体への指導の在り方を考え柔軟に実践している。		B		
		④ 評価	・教職員間で保育の振り返りをし、情報を共有して子ども理解を進め、評価している。		A		
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	・感染症対策を行い、計画を立案、実施をしている。	・関係機関からの指示伝達を受け、感染症対策を行い実施した。 ・園、地域の状況を随時把握し、内容や実施方法などを検討し、取り組んだ。 ・計画に基づき行事を行うとともに、保護者の方の理解を得ながら、子ども達が豊かな経験を積み重ねられるようにした。	A	・感染症対策の為、中止した行事もあったが、保護者や地域の方々の協力を得て、園行事を実施できた。 ・行事を通して、経験を積み重ね、人・もの・こととの関わりを広げた。	・今年度の行事を検証し、来年度の計画をする。 ・地域、保護者との連携を図りながら、子ども達が豊かな経験ができる内容を計画し実施する。
		② 行事内容の精選	・ねらいに添った環境や援助を工夫したり、その場、状況に応じた態度が身につくように支援したりしている。 ・可能な限り、保護者や地域の方に協力をいただき、豊かな経験ができるように連携を図っている。		B		
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	・幼児、地域の実態に即した人権教育指導計画を作成している。	・指導計画と個々の実態を重ね合わせ、日々取り組んだ。 ・一人一人のひっかかりや疑問点に丁寧に向き合い、必要に応じて学級全体で取り組んだ。 ・毎日の生活の中での友達や身近な人との関わりを教材として、人との関わり方や認め合う大切さなどを指導した。	B	・一人一人の人権尊重を基盤に、子どもの様子を話し合ったり背景を探ったりし指導した。 ・個々の思いや考えを大切に、互いに認め合える集団づくりに努めた。	・一人一人の実態把握に努め、指導方法を研修し実践していく。 ・保育現場での子どもとの関わりや言動等を検証し、職員間で学び、自身のスキルアップとクラス全体へのフィードバックにつなぐ。
		② 保育内容の精選	・自分の良さを知るとともに異年齢・保・小・中学校・地域の方と関わり、互いに様々な思いや考えを認め合える集団づくりに努めている。		A		
		③ 指導方法の工夫改善			A		
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	・全職員の共通理解のもと、幼児指導を行っている。	・発達段階に応じて、基本的な生活習慣、安全教育、食育などの計画を立案した。 ・指導が必要な幼児に対して、教職員で共通理解をし、保護者との対話を重ね継続的な指導を行った。 ・登降園時や学級懇談会などを通して、保護者に理解と協力を求めたり、啓発したりした。	A	・指導計画を共通理解するとともに個々に応じた指導に取り組んだ。 ・幼児が園生活が安心して送れるように、家庭との連携を図り、啓発を続けている。 ・個々の実態を把握し、相手の思いや自分の気持ちについて考えられるよう指導してきた。 ・園生活に必要な規範意識を個々に応じたり、クラス全体に投げかけたりして指導した。 ・保護者の状況に応じ、個々の姿を伝え話し合うとともに、学級懇談会で悩みなどを相談し合える場をつくるようにしてきた。	・幼児の実態に応じて計画を見直し、より効果的な体制づくりに取り組む。 ・個別の指導方法を研究し、充実させていく。 ・家庭・小学校・関係機関との連携を一層密にする。
		② 教育相談・幼児理解	・幼児にかかる情報を集約、共有し、幼児理解を深めている。		A		
		③ 家庭との連携	・幼児の健全な成長の為、実情に応じ、家庭・関係機関との連携を図っている。		A		
		④ 関係諸機関との連携			A		
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	・対処方針や指導計画が明確である	・いじめにつながる行為や言動を早期発見し、クラスで話し、社会生活を営む上で必要な規範意識が身に付くように指導した。	A		
			・日頃より実態把握・早期発見に努めている	・園内に安心、安定した場であることを実感して生活している。	A		
	・各学級の状況を園組織として共有できている		・実態把握をし、全職員で共通理解をし、課題を明らかにして取り組んだ。	A			
(6) 特別支援教育	① 推進体制	・全職員が共通理解し、支援教育を行う。	・支援を必要とする幼児の課題を教職員で共通理解し、園全体で取り組んだ。 ・支援内容の変更等、常に一人一人に応じた関わりができるようにした。 ・個々の課題を明らかにし支援を行うとともに、外部研修での学びを共有するなど職員のスキルアップにつながるよう取り組んだ。 ・家庭と連携をとり、個々の幼児の成長を確かめた。 ・市の発達相談を活用したり、関係諸機関と連携したりし、特別支援教育を行った。	A	・支援を必要とする幼児の日々の様子や指導計画を共通理解して、効果的な特別支援教育の実施に努めた。 ・進級、就学に向けて、関係機関と連携しながら対策を図った。 ・家庭、関係機関との連携、研修の充実等に努め、特別支援教育を進めた。	・支援を必要とする幼児の教育環境を整え、個々の課題への取り組みを継続する。 ・研修等に参加し、職員の資質向上に取り組む。	
	② 個々に応じた特別支援教育の内容	・確かな成長につなげている。 ・家庭・関係機関との連携を密にし、必要に応じて園訪問及び指導を仰ぐ。		B			
	③ 指導方法の工夫改善			A			
	④ 家庭との連携			A			
	⑤ 関係機関との連携			A			

園番号	園名
639	奈良市立伏見南幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 園長としての思いや願いを教職員にわかりやすく伝え、取り組んでいる。 明確で理解しやすい目標・方針である。 職員の共通理解を基盤に役割分担、協力体制が構築されている。 情報交換と課題検討の場として機能し、園運営に生かしている。 一人一人が特性を生かしながら、共に力を出し合い、高まっていこうとする関係づくりに努めている。 変化に対応できる柔軟な運営に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育ビジョンを示し、教職員で共通理解を図った。 職員が目標を・方針を意識して、日々の保育に取り組んだ。 職員間での気付きや、アンケート結果等から必要な改善点を明確にして解決に努めた。 一人一人の良さを生かし取り組むとともに共通理解を図り、課題解決に努めた。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果や意見等を多角的に分析して改善に取り組んだ。 活動立案者が率先して活動を進め全員の理解を促し、活動に臨むように努めた。 職員間のコミュニケーションが適切であった。 	<ul style="list-style-type: none"> “協働”を常に意識し、組織運営にあたる。 園務の分担を各自が自覚し責任をもって遂行し、率先して進めていく。 今後も職員間の意思疎通を図り、一人一人の良さが生かされる環境づくりに努める。
		② 園経営目標・方針						
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識						
		④ 園務分掌等の連携						
		⑤ 会議の運営と位置づけ						
		⑥ 会議の結果						
		⑦ 職場の人間関係						
		⑧ 園評価の実施						
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 計画的、継続的に研修を実施している。 創意工夫のある保育実践に取り組み、反省評価をし、指導力向上につなげている。 研修、研究会に参加し、その成果を他の教職員に伝え共有できている。 園研究テーマを意識し、実践、研究に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程・研究主題・人権教育・特別支援教育などの園内研修を計画し、実施した。 奈良市立こども園カリキュラムにかかわる研修をし、育ちの姿を再確認した。 日々の子どもの姿から省察し、保育内容・環境を構成し実践した。 それぞれの課題を共有し保育に取り組んだ。 研修に参加し、学んだことを共有、協議し、スキルアップにつながるようにした。 感染症に関する情報を職員間で共有し、研修を実施した。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 研修したことが、幼児理解につながり、子どもの育ちを促すことになった。 研修及び研究会に参加し、学んだことを伝え合ったり、意見交換したりし、保育の向上に努めた。 感染症に関する情報は、職員間で共有・理解し、保育に必要な対応に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の研究内容を話し合い、次年度に向けての体制を整える。 園内研修、外部研修の充実のための時間の確保に努める。 感染症対策下での研修充実に向け、地域や関係機関と連携を図る。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施						
		③ 園外の研修への積極的参加						
		④ 園外研修内容の報告や伝達						
		⑤ 研修成果の普及						
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心な園生活が送れるように、計画を点検し、全職員で理解している。 災害発生時や緊急時に対応する実践的な訓練を実施している。 幼児の発達段階や地域の実情に応じた安全指導を工夫している。 家庭・地域と連携をして、登降園の安全を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内の安全点検・避難訓練などを年間を通して計画し、幼児が安全に過ごせるようにした。 日常生活の中で危険回避や安全な生活について機会あるごとに指導した。 園児引き渡しカードを作成し、大規模災害発生を想定して、引き渡し訓練を実施した。 P T Aの協力を得て、集団降園時の保護者全員で安全確認を行った。 地域の防災士をお招きし、保護者対象に「防災について」の講演会を実施した。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の訓練を行うとともに、幼児自身が避難時について考える指導を行うことができた。 安全についての啓発や集団降園時の指導を繰り返し行ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な災害発生を想定し、避難訓練を実施する。 園児引き渡し訓練をより充実させる。 避難経路の確保について、引き続き関係機関に働きかける。 事故を未然に防ぐことができるよう、教職員間で意識を高めていく。
		② 防災計画の立案						
		③ 危機管理体制の整備						
		④ 安全指導の工夫改善						
		⑤ 家庭との連携						
		⑥ 関係機関との連携						
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 幼児が、自分の体や健康について興味をもったり考えたりできるように、発達段階・時期に応じた計画を立案し、実践している。 子ども自身の意識が高まるように働きかけている。 関係機関と連携し、感染症及び暑さや熱中症への対策をしている。 保育内容を工夫したり関係機関と連携したりして、食と体、自分の健康について関心をもてるようにしている。 感染症対策を徹底し、食前後の衛生管理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 健診や身体測定等を計画的に行い、幼児が自分自身の体や成長について興味をもてるようにしてきた。 感染症に関する情報収集に努め、適切に対策を実施したり保護者に啓発したりした。 消毒・手洗いなどの指導及び、衛生管理に努めた。 園医、薬剤師、小学校との連携を図った。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 健診や測定、保健指導を通して幼児自身が健康について考えたり、感染症対応をしたりした。 感染症拡大防止にできる限り対応し、取り組んだ。 時期に応じた指導、啓発をしたり、情報提供をしたりして、保護者との連携に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防については、市、関係機関と連携し必要な対策を進める。 保健計画を見直し、健康・成長・予防などについての教材を研究する。 たよりなどを活用して、保護者への啓発と連携を行う。 衛生管理により一層努める。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備						
③ 健康観察、健康管理能力の育成								
④ 関係機関との連携								
⑤ 昼食の衛生管理								
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動にかかわる情報を地域、保護者に発信したり、保育公開をしたりしている。 園の願いを受け止めてもらえるように説明や依頼を行い、地域、保護者と連携している。 地域の教育力を生かしている。 多様な人との関わりや校種間交流を進めている。 学校評議員の意見を聞く機会を定期的に設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 園だより・クラスだより・ホームページ・懇談会等を通して、園生活の様子を知らせた。 感染症対策を行い、できる範囲で参観の回数を増やし実施した。 地域コーディネーターと連携して、可能な活動を計画し、実施した。 地域の校園とは、情報交換をし、DVD等を介して交流した。 学校評議員会を開催し、保育や園行事を参観して頂き、園に対するアドバイスや評価をいただいた。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> たよりやホームページ、懇談会等で、家庭や地域に園の活動を発信することができた。 制約はあるが地域の校園と情報交換をした。 学校評議員会をもち、子どもの実態や園運営の状況について説明をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの活用とともに、家庭・地域に向けての発信を高める。 子どもの育ちにとって必要な校種間の連携をどのようにしていくか協議をする。 学校評議員会で、園運営などについての意見を参考に、改善やより良い運営を探っていく。 	
	② 園(保育)公開							
	③ 小学校との接続・連携							
	④ こ幼保との連携							
	⑤ P T Aの活性化							
	⑥ 地域教育協議会との連携							
	⑦ 学校関係者評価の実施							
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 園内環境の安全・整備・改善に努めている。 施設、設備の管理を適切に行うとともに、有効活用できるようにしている。 修繕が必要なものは関係機関に要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の遊具点検と共に、定期的に遊具・施設点検や環境整備を行い、安全に保育が行えるように努めた。 不備があったときは、可能な限り整備に努めた。 市に要請し、一部は修繕ができた。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員で協力し合い、安全、快適な環境づくりに努めた。 園でできる整備は限られているので十分とはいえない。 2階開放廊下の柵の修繕は完了した。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設、設備を新たな視点で見つめ活用を考え、幼児の活動の充実につなげる。 安全面を考慮し、今後も施設・設備の管理を行い、修繕が必要な箇所については要請をしていく。 	
	② 施設設備の有効利用							
	③ 施設設備の管理							
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 各種文書を適切に作成、管理している。 個人情報について教職員が理解し、適切に取り扱うようにする。 情報機器の管理、運用を適切に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報、情報モラルについて職員間で共通理解した。 また、個々の管理、チェック体制の不備がないか確認を重ねた。 市からの指示、通知等を周知し、情報の管理と保護を継続して行えるようにした。 また、パソコン、デジカメ等の取り扱いには市のマニュアルを遵守し適切に使用した。 保護者自身が個人情報について理解できるように啓発した。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器の取り扱いについては、各自が十分留意して取り扱っている。 随時、情報管理について周知し、確認している。 機会あるごとに保護者に啓発することで、個人情報への意識が少しずつ高まったので。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の徹底した管理に努める。 職員の意識を常に研ぎ澄まし、マニュアルについては確認を怠らない。 各文書の作成、管理等は厳重に適切に行う。 保護者には引き続き情報モラルや危機感についての啓発をしていく。 	
	② 公文書の作成							
	③ 個人情報の管理・保護							
	④ 情報の収集							